

「支所廃止ありき」の説明会、でも廃止反対の声が圧倒的

支所廃止の対応策①コア三館や民間4施設にマルチコピー機を設置、②マルチコピー機の操作の講習会、③コア三館で戸籍住民課とリモート相談、④司法書士などに住民票等を宅配)についての説明会が開かれました。説明会に臨んだ市長の姿勢は、「説明はするが廃止は変えない」という「廃止ありき」そのもの。こうした姿勢に厳しい批判が相次ぎました。

市長は「説明すれば市民の多数が廃止に賛成する」と強弁

「市長は廃止に賛成の市民が多いと思いますか。反対の市民が多いと思いますか」と質問された市長。「なぜそんなことを聞くんですか」と反論しかけたかと思うと、「説明をすれば多くの市民が廃止に賛成する」と言い放ちました。

まるで、説明会の圧倒的な反対意見も7千筆の署名も、市民の中では「所詮、少数意見」とでも言いたい口ぶり。

「今の時点で市民はどう思っていると考えているのか」と追及されても、その点は答えず。「今の時点では反対が多いようですが、言ったりは、言ったりでうですか」と促されても無視。

与党議員も、「質問にまともに答えてない。何を言っているのかさっぱりわからない」と言っほどの問答でした。

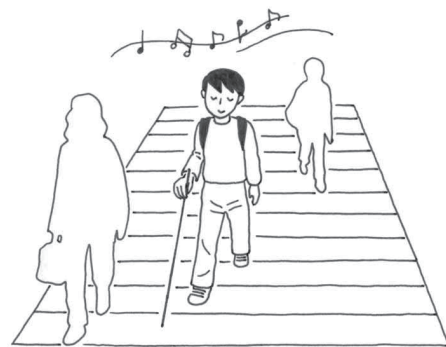
身体の不自由な家族は支所がなくなると本当に困る

脳こうそくの後遺症で半身まひ。杖をついてやっ
と短い距離をゆっくり歩ける程度。後遺症の失語
症もあり、会話も大変。こうした家族を持ってい
るといふ女性の方が、「ぜひ私の意見を聞いてもら
いたいと思ってきました」と切り出しました。

障がいのある家族は「支所ならそばまで車で行
けるので利用しています。しかし、本庁はバリア
フリーとはいえ、杖をついて戸籍住民課の窓口ま
では行けません。リモート相談もあると言いま
すが、失語症もあって言葉が上手に出てきません。
」

「対応策を講じると言っていますが、これではどう
にもなりません。支所がなくなったら困るんです
」と発言しても、市長「バリアフリーやユニバーサ

ルデザインを進めています。車いすでも大丈夫か、
道路のチェックもしています」と、まったく的外
れな答。「私は絶対、支所廃止反対と言っているわ
けではありません。
私たちのような人の
ことを、もっと考え
てほしいんです」と
重ねて質問しても、
市長の心には響かな
いようです。



支所の事務は効率化、接客はリモートで!?

市長は、支所の仕事の大半は証明書の発行、これはデジタル化の流れでマルチコピーでできる。相談業務はコア三館のリモート相談に引き継ぐので問題ないと繰り返しました。



しかし、遠くて市役所に行けない人が、コア三館にオンラインの相談に行くでしょうか。大楽毛はコア鳥取、桜ヶ岡や春採はコア大空、とても歩いていける距離ではありません。バスやタクシーで行くことになれば市役所まで直接行ってしまうことになる事は容易に想像できます。リモート相談は、まさに「絵に描いた餅」です。

事務と接客などと支所業務を切り分けることが、サービス低下につながるとは考えないのでしょうか。

マルチコピー機増設に伴って職員を配置するといいますが、配置するのは生協中央店と桜ヶ岡店の二人だけ。他の場所は機械を置くだけです。機械操作に不慣れな高齢者が「使えない現実」は改善されません。